

希望の鐘の音

2023・6月号

病院長あいさつ

岩手県立大槌病院広報誌をご覧ください誠にありがとうございます。

新たな年度の幕開けを迎え、ご挨拶申し上げます。

当院は震災後に仮設診療所を経て、平成28年に現在地に新築移転した病院です。

人口1万1千人の大槌町において唯一の入院施設として開業医の先生方、介護福祉の関係の皆さんと連携し地域医療に貢献していきます。

病院機能の役割分担により、当院では診療科の不足と十分な急性期医療の対応は困難ですが、近隣の県立病院と連携し診療をしています。



病院長 石川 徹

平成30年より地域包括ケア病床を導入しました。急性期の治療が終わった方を転院で受け入れ、その間に介護サービスの調整やリハビリを行うことが出来るようになりました。

患者さんへ退院後の生活の備え、支援を提供する取り組みを行っているところです。

また自宅で介護を受けながら生活されている方に一時的に入院していただくことも可能で、高齢の方を自宅で介護している家族に少しでも力になればと考えております。かかりつけの先生や担当されているケアマネージャーの方などを通じてどうぞ相談ください。

感染症法改正で新型コロナウイルス感染症が2類から5類に変わりましたが、当院としては引き続き発熱外来等の外来対応と、感染症対策を徹底しゾーニングによる入院患者の受け入れ対応を開始します。

また当院では今年度、病院機能評価の更新を予定しております。当院の医療サービスの質や安全性を客観的に評価するものであり、地域住民の皆様信頼される病院となるために必要な取り組みです。受審時には、自信を持って自分たちの取り組みをアピールし、高い評価を得られるよう努力してまいります。

基本理念「患者さんのために、地域住民のために、良質な医療の提供と地域医療の活性化を目指します。」のとおり地域の皆様に利用していただけるように今後も取り組みを進めていきたいと考えております。何卒、ご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

臨床検査技術科の紹介

震災前は4名だった検査技師数も今では2名となり、最小限の検査項目と釜石病院からの業務応援等で業務を行っており、患者さんの血液や尿などを調べる〔検体検査〕と、患者さんの身体を直接検査する〔生理機能検査〕を臨床検査技師がそれぞれ専門性を活かし行っています。

令和4年度に新たに追加された検査項目を紹介します。

○ 神経伝導検査（DPNチェック）

主に末梢神経に異常がないかをみる検査です。

腓腹神経の神経伝導速度（CV）と活動電位振幅（Amplitude）を計測します。

4つのステップにより、約15分で結果が得られます。

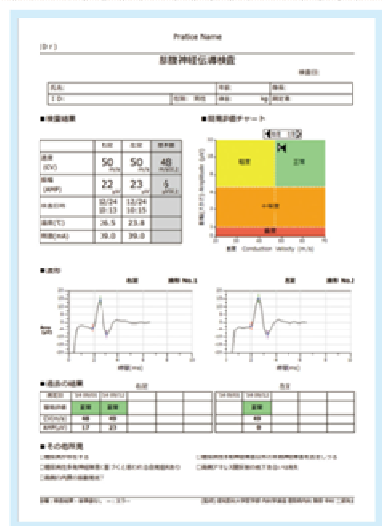
（実際の電気刺激は10秒前後です。）



外くるぶしの後ろ側で電気刺激を行い、活動電位の計測を行います（順行性）。

電気刺激での安定した波形が記録できるまで、自動的に数回～十数回の刺激を行います。

神経伝導速度は温度に影響されるため、赤外線温度センサにて表皮温を計測し、28℃を基準として±5℃の範囲で測定値の補正を行います。表皮温が23℃未満の場合は測定エラーとなります。



左：医師向けレポート
右：患者向けレポート

○ R-R間隔検査（心拍数変動検査）

R-R間隔検査とは自律神経の機能の異常を調べる検査です。

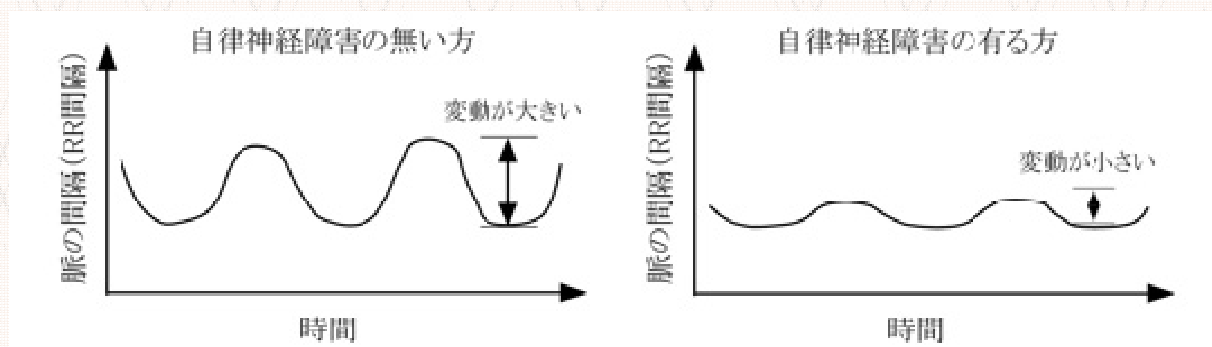
特に糖尿病の患者さんに多くみられる自律神経の機能障害の程度を検査するために多く用いられます。

検査を受ける前に

- ・検査前お茶、コーヒーなどの刺激物は避け、禁煙・禁酒してください。
- ・検査当日は安静にしてください。

検査の実際

ベッドに仰向けに寝て、手・足首に心電計のクリップを挟み、機械で心電図を10分程度測り続けます。測定している心電図は通常的心電図と同じですが、脈拍の変動を記録します。



- 当院の臨床検査科では、検査のオーダーから分析までバーコードにより管理され、結果は臨床検査技師とコンピュータによる監査のうえ、信頼性の高いデータを医師が的確に診断・治療に活かせるよう迅速に報告しています。

また、日本医師会などの実施する外部精度管理に積極的に参加し、常に正確なデータを提供出来るよう日々研鑽に努めております。

令和5年度転入医師の紹介



内科医長 岡田 洋平

1. 専門分野
消化器内科、肝臓内科
2. 趣味等
運動(ジム、バスケットボール)、TVゲーム、旅行
3. ひとこと
久慈→宮古→大槌と沿岸部を南下してきました。一般内科診療も行い、少しでも地域の方々と先輩医師の方々のお役に立てるように頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。

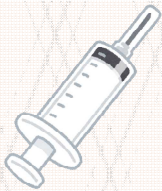
注射針などの返却について

大槌町リサイクルセンターでプラスチックごみの回収時に注射針が混入しており、手選別の際に針刺し事故の危険が生じているという事例がありました。

このような針刺し事故が起こらないように当院では注射針は耐貫通性をもった容器にて廃棄しております。

インスリン注射など患者さん、ご家族が自宅で使用する薬品がございます。自宅での使用後は医療機関に返却していただくようお願いしています。

使用済みのものはペットボトルなどの容器に入れ中央処置室へお持ちください。



そのまま袋に入れると注射針が袋を突き破る場合があります。



ペットボトルや空き缶など蓋付きの容器に入れて病院に持参してください。

岩手県立大槌病院

岩手県上閉伊郡大槌町
小槌第23地割字寺野1番地1

TEL 0193-42-2121

FAX 0193-42-3148

番号 第13号
発行日 令和5年6月19日
発行 岩手県立大槌病院
地域医療福祉連携室